

小松市教育委員会会議録

会議名	平成29年 第1回小松市教育委員会定例会					
開会月日	平成29年1月12日(木)	場所	第一地区コミュニティーセンター 第4・5会議室			
会議時間	(開会)午後 1時30分 ~ (閉会)午後 3時 55分					
休憩時間	①(休憩)午前・午後 時 分 ~ (再会)午前・午後 時 分 ②(休憩)午前・午後 時 分 ~ (再会)午前・午後 時 分					
委員 の 出席	教育長	石黒 和彦	出席	委員	北村 嘉章	出席
	委員	野田 美和子	出席	委員	蘆邊 千鶴子	出席
	委員	吉原 慎吾	欠席	出席委員3名、欠席委員1名		
出席 説明 員	教育次長 山本 裕	出席	シニアマネージャー 柿本 欣也	出席		
	未来の教育課長兼教育研究センター 所長 廣田 恵子	出席	図書館長 山崎 みどり	出席		
	教育庶務課長 吉田 均	出席	学校教育課長 波佐尾 雅人	出席		
	市立高校事務長 堀 威智郎	出席	青少年育成課長 東谷 勝美	出席		
	ひとつものづくり科学館 副館長 浅野 幸恵	出席	博物館・美術館館長 二木 裕子	出席		
	教育庶務課参事 池田 美和子	出席		出席		
書記						
傍聴者	2名					
会議 に 付 し た 議 題	【議案】					
	議案第1号 小松市教育委員会奨励表彰要綱の制定について(教育庶務課)					
	【報告事項】					
	・博物館・美術館の展覧会および事業について(博物館・美術館)					
	・平成28年度小松市サイエンスアドベンチャーについて(未来の教育課)					
	・図書館行事について(図書館)					
	・平成29年度市立高校推薦入学および一般入学検査について(市立高校)					
・全国子供歌舞伎フェスティバル in 小松子供歌舞伎「勸進帳」経過報告(青少年育成課)						
・平成28年度 全国体力・運動能力調査結果について(学校教育課)						

教育委員会報告

平成29年1月12日

【議案】	
	議案第1号 小松市教育委員会奨励表彰要綱の制定について
所管部課名	教育庶務課
内 容	教育委員会や地区公民館が主催する生涯学習の講座や教室等に、継続的に長年にわたり参加し、自己研鑽に務め、他の範となった方に、表彰状を贈り顕彰するための要綱を制定するもの。 施行日は平成29年1月12日とする。
教育委員からの意見等	【北村委員】 ①主旨をきちんと引き継ぎしておくこと。 【蘆邊委員】 ②長年とはどの程度なのか。ある程度の基準が必要なのではないか。
回 答	今後、内規にきちんと表彰基準、表彰条件を決めていく。
【報告事項】	
件 名	博物館・美術館の展覧会および事業について
所管部課名	博物館・美術館
内 容	<p>① 12月末までに行われた展覧会の入館者数の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「小松の石と文化」(博物館) 10月1日から12月1日までで2,508人 ・館蔵品展「色いろな魅力」(本陣記念美術館) 867人 ・企画展「小松のやきもの」(錦窯展示館) 827人 ・特別展「人物礼賛～宮本三郎の描いた人々～」 1,678人 ・展覧会「宮本三郎と二紀会」会期2回、うちのPART1 709人 <p>② 現在開催中の展覧会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「しらべてみよう！むかしのくらし★小松の石」(博物館 3階) 毎年、「しらべてみよう！むかしのくらし」ということで、小学校3年生のカリキュラムに合わせた展覧会。毎年、3年生の生徒さんに博物館に見学に来ていただき、解説を加え、実際の昔の道具を体験していただくもの。本日まで、市内25校のうちの21校、加賀市から小学校1校の予約を受付。 ・「水郷小松の民俗～川と潟の生業とくらし～」(博物館 3階) 小松は、かつて加賀三湖に恵まれ、さまざまな河川で水の恵みを大変大事にしてきた土地柄です。そこでどんな暮らしがあったかということを古文書や、さまざまな資料を紹介。 ・館蔵品展「鳥と花々と・・・」(本陣美術館) 今年の干支のとり年にちなみ、本陣コレクション1,000点の中から鳥や花にかかわる作品を紹介。 ・「宮本三郎さんのアトリエ訪問！」(宮本三郎美術館) 東京の宮本三郎さんのアトリエで使われていたいろんな道具を実際に会場に設置し、さも宮本先生のお宅に伺ったような雰囲気味わっていただく。

	<p>・「宮本三郎と二紀会 PART2」(宮本三郎ふるさと館) 宮本三郎さんが二紀会を立ち上げたときに北陸二紀会という団体を立ち上げました。そのメンバーの方たちの作品もあわせてご紹介。</p> <p>③第4回宮本三郎記念デッサン大賞展について デッサン大賞は、宮本三郎さんがかつてデッサンの名士であったということを念頭に、全国からデッサンを公募するという全国でも大変珍しい展覧会。2年に一遍開催。来年度は第4回。12月より広報を始め、1月から新しい公募展の要項が完成して配布を行なう。 今回、1回～3回までと大きく違う点は、1回～3回は審査員が横尾忠則先生、酒井忠康先生、山本容子先生という大変著名な方たち3名に審査をしていただいた。先生方には1回から3回でこのデッサン展の土台ができたということで、新たな人選でデッサン展の新しい可能性を広げてほしいということで、第4回から新たな審査員の皆さんをお願いすることになった。 審査員は、荒井良二先生。絵本作家で、イラストレーターとしても著名。鴻池朋子先生。現代美術家として「日曜美術館」などに取り上げられた作家。小澤基弘先生は、高校の美術の教科書の編集などをされている先生で、子供たちの美術に対する教育という面でいろいろな取り組みをされている。世田谷美術館学芸部長の橋本善八先生。デザイナーとして皆川明先生。皆川先生は、NHKの「プロフェッショナル」の中で最近取り上げられた。若手の著名な先生方に新たな審査員として加わっていただく。</p> <p>・買い取りの作品を3点から4点に増やし、将来、デッサン大賞展の展覧会の巡回を考えております。 展覧会の会期は9月から約1カ月小松、その後、東京展を行ってありますが、今回は9月23日から12月3日までを小松展、東京巡回展を世田谷美術館分館の宮本三郎記念美術館で12月16日から3月18日まで(約3カ月間)</p> <p>④その他 春に日本遺産に小松の石文化が認定を受け、その番組が今年の11月13日からBSのTBSのほうで放送。小松の日本遺産に関しては、今年の1月29日に毎週日曜日の朝9時半から、BSのTBSで放送される予定。</p>
<p>今後の方針</p>	
<p>教育委員等の意見</p>	<p>【蘆邊委員】 ①終了展覧会の人数は、多い人数なのか、それとも思ったより少なかったとか、どちらなのか。また、この人数に対して今後どんなふうを考えているのか。</p> <p>【北村委員】 ②全国的にいっぱいいろんなアイデアを出してやっているところがありますので、参考にしながらやっていただきたい。宮本三郎さんという郷土のすばらしい逸材ということを小学校の子供たち、学校に働きかけて、ぜひとも子供たちに本物を見せてあげていただきたい。 ③宮本三郎記念デッサン大賞で、審査員になぜこういう先生を選んだのか説明していただきたい。 ④要望として、平成27年度から1年半、小松市立高校に講師として芸術院会員であった小松市出身の故塗師祥一郎先生にデッサンを含めて絵の描き方を教えていただいた。平成29年度、展覧会かなにかできないか考えていただきたい。</p>

<p style="text-align: center;">回 答</p>	<p>①博物館の小松の石と文化展に関しては、昨年に加賀九谷焼の展覧会よりは若干落ちる、80%ぐらいの入館者数。 本陣記念美術館、錦窯展示館は、ほぼ横ばい。 宮本三郎美術館、昨年、デッサン大賞展を開催しており、それよりも若干減っている。 ふるさと館は昨年あたりから、月に1回、必ずコンサートや講座などを開き若干微増です。 特別展の内容によって入館者数が上下する。年間トータルで博物館は約8,000人で、美術館も大体同じで、宮本三郎美術館もそれぐらいというふうな目標を持って取り組んでおります。</p> <p>②今回の審査員は、純粋な絵画の方というのは鴻池先生と小澤先生です。デッサンの定義を実行委員会の中で話し合った時に、デッサンとは絵の下絵ではなくて、一つの新たな表現という位置づけで私たちは取り組もうということできずと話し合いを進めてきましたが、どうしても展覧会の応募ということになると、絵を描いている方たちが応募する展覧会というイメージが大変強うございました。それで、一石を投じようということで、実はデッサンは作品をつくる時にいろんなイメージを組み合わせるために描いたり、工業的なものをつくる時にもあらゆる場面でこの下絵というか、デッサンをしていくということはいろんな分野に可能性が広がるのではないかとということで、今回はこれまでの純粋美術から一歩踏み出て、デザインという部分で応募者が増えるのではないかとということで、審査員を選びました。</p> <p>まだ実現はしていませんが、将来的には建物の設計とか、そういった方たちにもデッサンという分野でこの展覧会に応募できるんだというアピールもしていきたいと話し合いの中には上がっております。今回は第一歩としてデザインという部分を組み入れております。</p>
<p style="text-align: center;">件 名</p>	<p>平成28年度小松市サイエンスアドベンチャーについて</p>
<p style="text-align: center;">所管部課名</p>	<p>未来の教育課</p>
<p style="text-align: center;">内 容</p>	<p>目的 ①高校生が行う科学の甲子園、中学生の科学の甲子園ジュニアの大会に向けた、小学校の科学の甲子園ジュニア版として。 ②市内の小学校の若手教員の育成です。企画運営を市内の小学校若手教員で行う。</p> <p>■内容 ・ものづくりコンテスト「紙トンボをつくって飛距離を争う」 3人1チームで規定されていた道具、内容を考え合わせて、円盤型、らせん型、チョウチョウ型等試行錯誤しながら、飛距離を争いました。 閉会式には、金賞、銀賞、銅賞、努力賞、サイエンスヒルズ賞という賞を決め、たくさんの子供たちに賞が行くように表彰を行った。</p> <p>・湯浅・中山賞の受賞者の研究発表 ものづくりコンテストの審査時間に湯浅・中山賞を受賞した子ども達の研究発表を、たくさんの子供にも知ってもらおう。また自分も来年、あんな研究をしたいと思う気持ちを持っていただく。</p>

	<p>監修は金沢大学の松原先生に、内容、講評などをしていただいた。 来年度も続けていく予定。</p>
委員からの意見等	<p>【北村職務代理者】 研究だけでなく、人前で発表することで、自信になり、次のステップにもなったのではないかと思う。ぜひとも継続的に続けていただきたい。できれば3人、4人とふやすようなまた仕掛けもしていただきたい。 また、若手の教員を育てていくことは大事なことであり、次年度さらなる飛躍する事業にさせていただくことをお願いしたい。</p>
件名	図書館行事について
所管部課名	図書館
内容	<p>① こまつ市民読書の日講座 21日にキッズ講座として「冬の星空をながめよう」と題し、室井敏之先生の解説によるプラネタリウムを2回開催する。</p> <p>② 市史編纂事業 毎年恒例の古文書講座。今年度、図書館主催で、古文書入門講座を3回に亘って開催。石文化が日本遺産に認定されたことにちなみ、近世の頃の石生産関連した古文書を読み解いた。この講座で、平易な基礎的な古文書を取り扱ったので、今回の講座では、内容をレベルアップし、中級編。市史編纂所蔵の旧家の文書から、当時の町の生活を記した古文書を読み解き、その様子を探る。</p> <p>③ テーマ展示 南部図書館では、栗津・矢田野小学校生によるおすすめ本の紹介コーナーを設けていたが、好評につき、再度南部中学校から第二弾を始めた。本館では、年の始めということで、いろいろな「こと」の始まりでもあり、身近にある「もの」、「こと」の始まりや歴史、由来についての本をズラリ並べた。また、酉年にちなんで「トリ」に関する本も集めた。 テーマ展示は来館者の目に止まり、ついつい本を手にとってしまうことをねらって設けている。</p>
委員からの意見等	<p>【教育長】 南部中学校による「おすすめ本コーナー」は、2回目でありながら、積極的に畳1畳分の広さを埋めてくれた。今年度はビブリオ講座を開き、できれば3月に大会が実施されることを期待する。→他の中学校でも広めてほしい。</p>
件名	平成29年度市立高校推薦入学および一般入学検査について

所管部課名	市立高校
内 容	<p>■推薦入学</p> <p>○募集人員 普通科24名、普通科(芸術コース)10名。</p> <p>○出願資格 義務教育を卒業見込みのも (合格の内定を得た場合に入学を確約できる者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科 成績優秀でボランティア等にも積極的に参加し、リーダーとして期待できる者。 ・芸術コース 芸術コースについての適正、技量等 <p>○面接試験等の日程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科は作文、面接 ・普通科(芸術) 実技、面接 ・合格発表、2月14日に各中学校長に通知。 合格内定者には中学校長を通じて通知を送る <p>■一般入学</p> <p>○募集定員 普通科200名のうち、普通科160名、芸術コース40名。 (推薦入学の人数を含む)</p> <p>○学力検査等の日程 3月7日、8日</p> <p>○会場 小松市立高校</p> <p>○日程 1日目:国語、理科、英語 2日目:社会、数学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科(芸術コース)は、学力検査終了後、適正検査等実施。 5教科は全て100点満点 <p>○合格の発表 3月15日正午、本校生徒玄関(受験番号を掲示)</p>
委員からの意見等	<p>【北村委員】</p> <p>① 推薦と一般入学は昨年と変わらないということか。 どれだけ応募があるか期待と憂慮している。 学校がPRをしていくことを考えていくべきではないか。</p>
回 答	①変わっておりません。
件 名	第19回全国子供歌舞伎フェスティバルin小松子供歌舞伎「勸進帳についての経過報告
所管部課名	青少年育成課
内 容	<p>○出演者応募人数 役者 17名、 長唄・囃子方 18名</p> <p>○役者選考会(平成28年12月11日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役者 15名 これまで役者経験者が務めていた後見について、応募された皆さんに一人でも多く歌舞伎に携わっていただきたいという思いから、新たに2名の小学生を配役として決定。 ・長唄・囃子方 18名 (こまつ歌舞伎未来塾の邦楽教室の塾生も加え、最終的には31名) 一部出演者の入れかえを行い、応募者全員出演を予定

	<p>○上演結団式(平成28年12月18日)を開催</p> <p>○今後の稽古予定</p> <p>12月23日、24日、25日の3連休から稽古開始</p> <p>1月5日から稽古再開</p> <p>今後は、後見に新たに2名の小学生を加え、長唄・囃子方は、本番初日と2日目の出演者を入れかえをして、皆さんに出演いただくという方向で調整する。</p>
委員からの意見等	<p>【野田委員】①今年度、応募した子供たち全員が参加できるということで、大変うれしく思っている。例年、歌舞伎に興味を持った子が落選することで、歌舞伎を、毛嫌いしてしまう傾向があったが、全員参加で、人数も大勢になり、より盛り上がることと思います。ありがとうございます。</p> <p>【蘆邊委員】②私も同じ意見でした。</p> <p>【北村委員】③よかった点は、参加者が多くなったということ。歌舞伎のまちをPRすることにもつながるのではないかと思う。ひいては中学校の古典教室とも連携していくことになる。課、教育委員会全体でこの事業を盛り上げていただき、すばらしい歌舞伎を上演していただきたい。</p>
件名	平成28年度 全国体力・運動能力調査結果について
所管部課名	学校教育課
内容	<p>1. 結果の概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中とも「上体起こし」「ボール投げ」の能力が高い。 ・中学校は「握力」を除いて全国平均を上回っている。小学校では男女の「立ち幅とび」、女子の「長座体前屈」にやや伸び悩みが見られる。ここ数年の状況として、小学校女子の「長座体前屈」「50m走」、中学校の「握力」にやや課題が見られるが、小学校男子「長座体前屈」は改善傾向にある。 <p>2. 今後の方針について</p> <p>(1) 教育委員会の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 今年度体力向上推進校(今江小)の研究成果を各校に周知し、課題に応じた具体的な指導を行えるようにする。 ② 課題校へ継続的なサポートを行う。 <p>(2) 各校の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 推進校の実践を参考に、継続的に改善に取り組む。(計画的に成果の検証を行う。) ② 課題に応じた「体力アップ 1校1プラン」を実施する。 ③ 「スポチャレいしかわ」に積極的に取り組み、意欲と能力の向上を図る。
今後の方針	優れた指導法を各校に広め、教員の指導力向上を高めていく。

委員からの意見等	【北村委員】民間のノウハウを生かし、具体的な改善を進めてほしい。
【その他】	
	次回教育委員会会議の日程について 未定 3月に市長選があり、3月議会も当初よりも早く2月中に始まるということで、次回の委員会の日程等は未定。調整を後日させていただく。
【教育委員からの意見・提言】	
北村委員	<p>学校ではベテランの先生が若手教員に教え合って授業力の向上、生徒指導の指導力が、年々々々身につけていることを学校計画訪問等へ行った際に感じている。</p> <p>ただ、残念なことは、社会性が身につけてない。社会で当たり前のことがなかなかできてないというのが実態。学校だけでなく先生は、常に保護者、地域の方がついている。学校内だけでなく、自分は先生であるという自覚を持って、言動、行動、姿勢を正していただきたい。</p> <p>それが、ひいては保護者、地域の方々の信頼関係の構築につながると思っている。授業力も指導力も大変大切なことだが、それ以前に、人間として、社会的な基本的なことをぜひともいろんな機会ですんで、立派な先生になっていただきたい。管理職の先生方は、その方面のことも教えていただきたい。</p>
野田委員	<p>市立高校について</p> <p>①制服の変更は、いつからですか？ポロシャツが毛玉つきにくい、最近のさらっとした生地が変わるということで、生徒たちが着やすい生地を求めて今改善してくださるとのことなのでうれしく思っている。</p> <p>②自転車通学ができない冬の期間の通学について。特に午前半日で授業が終わった場合に帰りのバスの便が少ない。小松市のバスと小松市立高校とが連携して、増便する等考えてもらえたらと保護者からの意見もある。</p>
回 答	ポロシャツは夏の制服ですけど、変わる予定だということで、確約まではいかないですが、変更することで作業を進めています。
蘆邊委員	<p>4月から新たに先生になられた方や、新しく他県や他市のほうから小松に入ってくる先生方に、小松市のこと、特に自分が赴任する学校の校区のことについて理解していただきたいと思います。</p> <p>宮本三郎美術館や博物館、小松市出身の有名な芸術家の方等のことも知り、理解し、知識があつてこそ、学校、地域の人たちと話を交わしていくことができるのではないかと思います。新任の先生方には教育委員会からマニュアルか手引きを作成してもらい、勉強してもらえたらいいのではないかなと思うので、検討してください。</p>